

平成 30 年 網走市議会  
総 務 経 済 委 員 会 会 議 録  
平成 30 年 2 月 22 日 (木曜日)

○日時 平成30年 2月22日 午前11時46分開会

総務議事係主査

寺 尾 昌 樹

○場所 委員会室

○議件

1. 第6期網走市総合計画について
2. 網走市水道ビジョンの策定について
3. 行政視察の実施について
4. その他

午前11時46分開会

○金兵智則委員長 それでは、ただいまから総務経済委員会を開会いたします。

本日の委員会の議件は、第6期網走市総合計画、網走市水道ビジョンの策定、行政視察の実施についての3点です。

それでは、1番目、第6期網走市総合計画についてより説明を求めます。

○北村幸彦企画総務部参事 第6期網走市総合計画について御説明申し上げます。

資料1-1号をごらん願います。

1、これまでの経緯でございますが、(1)市民アンケートを実施いたしました。

新たな総合計画を策定するに当たり、これまで取り組んできました施策に対する満足度や重要度のほか、基本的な意識などについて調査を行ったものでございます。

結果の概要につきまして御説明いたします。

資料1-2号をごらんいただきたいと思っております。

1、調査方法と回収結果ですが、市内在住の18歳以上の方2,000人を対象とし、無作為抽出により調査を実施いたしました。

調査期間は平成28年9月15日から10月5日で、回答数は695件、回収率は34.8%でございました。

次に、2、調査結果の概要でございますが、(1)基本意識調査として掲げた住みやすさ、2ページに幸福感、豊かさとおまの将来像、合わせて3項目をグラフにしております。

初めに網走の住みやすさですが、住みやすい、どちらかといえば住みやすいと答えた方が全体の66.8%を占めておりまして、その主な理由といたしましては、自然環境が良いから、日常生活が便利だから、住環境が良いからというものが挙げられております。

一方、住みにくい、どちらかといえば住みにくいと答えた方が全体の13.1%でありまして、その主な理由といたしましては、日常生活が不便だから、保健・医療体制が悪いから、人々のつながりが悪いからというものが挙げられております。

○出席委員 (8名)

委 員 長	金 兵 智 則
副 委 員 長	立 崎 聡 一
委 員	小 田 部 照
	川 原 田 英 世
	永 本 浩 子
	古 都 宣 裕
	松 浦 敏 司
	渡 部 眞 美

○欠席委員 (0名)

○委員外議員 (1名)

議 長	工 藤 英 治
-----	---------

○傍聴議員 (4名)

井 戸 達 也
佐々木 玲 子
平 賀 貴 幸
山 田 庫 司 郎

○説明者

副 市 長	川 田 昌 弘
企画総務部長	岩 永 雅 浩
企画調整課長	秋 葉 孝 博
企画総務部参事	北 村 幸 彦
水道部長	佐々木 浩 司
営業経営課長	野 呂 俊 広
上水道課長	吉 田 憲 弘

○事務局職員

事 務 局 長	大 島 昌 之
次 長	細 川 英 司

2ページをごらん願います。

上の表はどのようなことに幸福感、豊かさを感じるかの設問に対しまして、心身の健康が最も多く、下の表は、望まれるまちの将来像につきましては、保健・医療・福祉が充実した健康で安心して暮らせるまちが最も多い結果となっております。

3ページをごらん願います。

市の施策に対する満足度と重要度の結果でございます。

皆様からの回答を縦軸に重要度、横軸に満足度を表わして分類しております。

上段をごらん願います。

右上青色の枠に分類される項目は満足度も重要度も高く、現在の水準を維持することが妥当と考えられます。

左上黄色の枠に分類される項目は、満足度は低いが、重要度は高く、優先して改善を要すると考えられます。

右下緑色の枠に分類される項目は、満足度は高いが、重要度は低く、改善の必要性が低いと考えられます。

左下赤色の枠に分類される項目は、満足度も重要度も低く、取り組みのあり方が検討が必要と考えられます。

以上のような考えをもとに分類しております。

現行計画の基本目標1、支え合い、安心して暮らせるまちの取り組みでは、全体的に重要度が高い結果になりました。

満足度では保健が高く、社会福祉と勤労者福祉が低くなっております。

続いて4ページ、基本目標2、快適で調和のとれたまちの取り組みでは、重要度では分布にばらつきがあります。

満足度では上水道、生活排水処理、消防、救急が高く、土地利用、市街地整備、公共交通が低くなっております。

次に目標3、にぎわいと活力にあふれるまちの取り組みでは、満足度では雇用労働対策、商業、新産業創出で低くなっております。

続いて5ページの基本目標4、みずから学び、ふれあいを大切にするまちの取り組みでは、重要度では学校教育が高く、地域間交流が低くなっております。

満足度が全体に高く、スポーツが最も高い結果となっております。

次に目標5、みんなで知恵を出し、いっしょにつくるまちの取り組みでは、重要度は財政が高く、ほかの項目では低くなっております。

満足度ではコミュニティ、市民活動が高く、財政が低い結果となっております。

それでは資料1-1号にお戻り願います。

(2) 総合計画協働会議の開催でございますが、この協働会議は、次のまちづくりを担う世代で、経済、福祉、まちづくり、教育などにかかわる方やまちづくりに興味のある方、市職員が同じ立場で将来を展望したまちづくりなどについて自由に議論していただくための組織でございます。

会議の構成は、50歳未満の指名委員、一般公募の方と40歳未満の市職員の中から公募によるもの、合わせて37名で構成しております。

協働会議は昨年6月21日から本年1月18日までの間に6回開催し、延べ127名に参加していただきました。

内容といたしましては、網走市の魅力、課題、将来のイメージ、各分野における取り組みなどについてワークショップ形式で意見をいただきました。

次に(3) 中高生ワークショップの開催でございますが、今回、新たな取り組みとして実施いたしております。

ワークショップは、まちの将来を担う市内中学生と高校生を対象に、応募のあった32名で構成し、昨年10月28日と11月3日の2日間開催し、延べ49名に参加していただき、網走市の魅力、課題、将来などについて意見をいただきました。

協働会議及び中高生ワークショップの開催経過につきましては、資料1-3号にまとめておりますので、後ほどごらんいただきたいと思います。

次に、(4) 総合計画審議会の開催でございますが、附属機関条例に基づき、学識経験者3名、民間諸団体の代表者18名、市民からの公募4名の計25名で構成しております。

審議会の所掌事項は、市長からの諮問に応じて総合計画についての審議、意見具申を行うこととなっております。

審議会は昨年9月7日に1回開催しておりますが、総合計画策定についての説明及び市長からの諮問をしたところでございます。

最後に2、今後のスケジュールでございますが、総合計画審議회를3月1日、3月下旬に開催しまして、総合計画素案を審議し、4月中旬には、総合計

画案の決定、審議会からの答申を予定し、その後パブリックコメントを実施したいと考えております。

同時期の5月中旬に、当委員会に対しましても、総合計画案を御説明し、その後、6月の第2回定例会におきまして基本構想について上程したいと考えております。

次に資料の1-4号をごらんください。

3月1日に開催いたします、総合計画審議会にて御議論いただく予定の第6期網走市総合計画基本構想の考え方について、御説明させていただきます。

2ページをごらんください。

序章、第6期網走市総合計画策定の考え方でございます。

1、計画の策定の趣旨でございますが、現行の計画は平成29年度までとなっていることから、現在の社会情勢等を踏まえ、今後目指すべき将来の姿を明らかにし、その実現に向けた基本的な考え方や取り組みを示すものとして、新たな総合計画を策定するものでございます。

3ページをごらんください。

2、計画策定の視点でございますが、一つ目に協働によるまちづくりの意識向上と行政組織の活性化を目的に、多くの市民に参加していただくという視点からみんなの総合計画、二つ目に市民との協働のまちづくりを進めるため、まちの目指す姿と方向性を市民と共有するという視点からわかりやすい総合計画といたしました。

4ページをごらんください。

3、計画の構成と期間でございますが、現行の計画と同様、基本構想と基本計画で構成し、平成30年度から平成39年度までの10年としております。

5ページをごらんください。

4、計画策定の体制でございますが、計画の策定に当たり、市民の意見をより反映させるとともに、多くの市民にこれからの網走市が目指すまちの姿とまちづくりの方向性を理解してもらうことが重要であると考え、図で示す体制としております。

次に7ページをごらんいただきたいと思っております。

ここからが基本構想となります。

第1章網走市のいまでございます。

1、時代の潮流と網走市では、国、都道府県、市町村又は地域を取り巻く状況等を掲げることによって、現状認識を示しております。

一つ目は人口減少・少子高齢社会の急速な進行でございます。

本格的な人口減少・少子高齢社会を迎えており、経済成長、産業、社会保障など、さまざまな分野への影響が懸念され、特に地方においては、大都市圏への人口流出に歯どめがかからず、人手不足や地域活力の低下が進行し、あらゆる生活基盤の維持、確保することが困難になることが懸念されます。

このような人口減少社会にあっても、安心して子供を産み育てられ、誰もが健康で安心して暮らすことのできるまちづくりが求められると考えているところでございます。

二つ目は、環境問題の深刻化と資源・エネルギー事情の変化でございます。

地球温暖化の進行により、環境問題や異常気象など、深刻化が懸念されております。

また、環境への影響が少ない、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー対策の重要性やごみの減量化やリサイクルなど、限りある資源の有効活用が求められております。

こうしたことから、次世代へ良好な環境を引き継ぐために、環境に負担の少ない循環型社会への形成が必要と考えております。

三つ目は、安全・安心に対する意識の高まりでございます。

東日本大震災や熊本地震など大規模な自然災害が近年頻発しており、住民の防災に関する意識が高まっております。

こうした大規模災害の教訓により、国や地方公共団体による防災対策の推進「公助」、自分のことは自分で守る「自助」及び自分たちの地域は自分たちで守る「共助」が、密接に連携することは極めて重要であると考え、これらの意識の向上と体制の構築が求められるほか、道路などインフラや公共施設の老朽化が進む中、将来世代に大きな負担を強いることなく、安全・安心で持続可能な市民サービスの提供が求められ、人口減少や人口構造の変化による、利用需要を的確にとらえた公共施設等の総合的な企画、管理が必要になると考えます。

8ページをごらんください。

四つ目は、グローバル化と高度情報化のさらなる進展でございます。

世界的な貿易自由化の進展とともに、交通情報手段の飛躍的な発達、普及により、経済活動をはじめ日常生活などあらゆる面において、世界各国との結びつきが強まっております。

経済のグローバル化の進展に伴い、国際的な市場

競争力が激化する中、基幹産業である農業、水産業及び観光業の持続的な発展には競争力を高め、アジア諸国などの経済成長を取り込むことが必要であると考えます。

また、近年の情報通信技術などの進展により技術革新が急速に進んでおり、こうした新しい技術の組み合わせは、私たちの働き方を変えるなどさまざまな分野で大きな変化をもたらす可能性を秘めていると考えます。

五つ目は、協働による持続的なまちづくりの重要性でございます。

人口減少・少子高齢化、経済のグローバル化、情報化など、取り巻く社会情勢は常に変化・複雑化し、住民のライフスタイルや価値観は変わり、そのニーズは多様化、高度化しております。

一方で、本市の財政は依然として厳しい状況にあり、行政のみで多様な市民ニーズに対応し、地域課題を乗り越えていくことは困難となっております。

市民、団体、企業、行政など多様な担い手が一体となり、連携しながら、さまざまな地域や社会の課題に立ち向かい、まちづくりを取り組むことが必要であると考えます。

9ページをごらんください。

2、市民の思いでございます。

先ほど、市民アンケート、協働会議、中高生ワークショップにつきまして開催経過等を御説明させていただきましたが、(1)として協働会議及び中高生ワークショップにおきまして出されました網走の魅力と課題をまとめております。

項目としては、自然、ひと、健康・医療、子育て、食、産業、雇用、交通、スポーツ、中心市街地にぎわいについて、表に主な意見を取りまとめております。

10ページをごらん願います。

(2) まちの将来像でございますが、自然豊かなまち、全ての人に優しいまち、みんなが活躍するまち、人のつながりがあるまち、子育て環境が充実したまち、医療が充実したまち、オホーツクの中心、活力があるまち、にぎわいのあるまち、交通の充実したまち、という意見が出されておりました。

次に(3) 必要な取り組みでございますが、ワークショップの中でさまざまな意見が出されました。

内容は記載のとおりでございます。

次に、11ページをごらんください。

(4) 市民の満足度と重要度について記載してお

りますが、先ほど市民アンケートの内容を御説明いたしましたので割愛させていただきます。

次に、12ページをごらんください。

第2章網走市の将来に向けてでございます。

1、まちづくりの理念ですが、現行計画と同様としております。

次に2、目指す方向性でございますが、本市にはさまざまな魅力ある資源がありますが、まだまだ潜在した魅力を秘めていると考え、市民、団体、企業、行政が一体となってまちの魅力を守り、引き出し、創出しながら、まちの持つポテンシャルを最大限に生かしたまちづくりを進め、次の世代にもすばらしい網走を引き継いでいくことと考えております。

時代の潮流や市民の思いから、だれもが暮らしやすいやさしいまちづくり、まちの魅力を引き出す、創出する、さまざまな連携、協働によるまちづくり、時代の変化にも対応できる持続可能なまちづくりといった大きな四つの方向性を持って、まちづくりを進めていきたいと考えております。

13ページをごらんください。

3、将来像でございますが、現行の総合計画では、「豊かなオホーツクに活気みなぎるまち網走」と将来像を掲げております。

新たな総合計画の将来像につきましては、総合計画審議会において御議論をいただくこととしております。

記載例は、市民ワークショップから出されましたフレーズ等を参考に例示したものでございます。

14ページをごらんください。

4、将来像を実現するための五つの目標でございますが、目指すべき将来像が未確定のため、あくまでも例としてありますが、目標1は、一人ひとりを大切にする優しいまち、目標2は、豊かな自然と共生する安心なまち、目標3は、ひとが集いにぎわいと活力を生むまち、目標4は、豊かなひとを育むまち、目標5は、ともに歩み、築く協働のまちと示しております。

将来像を含め、総合計画審議会にて御議論いただくことと考えております。

15ページをごらんください。

第3章計画の推進でございます。

1として計画推進の考え方、2として計画推進の方法、3、計画の進行管理として(1)に点検・評価の実施、(2)PDCAサイクルに基づく行財政

運営、(3)として計画の見直しについて記載しております。

説明は以上でございます。

**○金兵智則委員長** ここから質疑に入りたいと思いますが、ここで昼食のため暫時休憩をいたしたいと思います。

午後1時から再開ということにしたいと思います。

午後0時00分休憩

午後1時00分再開

**○金兵智則委員長** それでは、再開をいたします。

議件の1番目、第6期網走市総合計画について説明を受けましたので、これより質疑に入ります。

**○松浦敏司委員** 今、説明を受けて、5月中旬ころにまた総務経済に説明をするということで、基本的な考え方については理解するところですが、ひとつ気になるのが、第1章の時代の潮流と網走市ということで、人口減少・少子高齢化社会の急速な進行ということで、ここがやっぱり、私は大きな問題といえますか、ポイントだというふうに思います。

この日本の人口減少・少子高齢化っていう点では、世界の中でも異常なほど日本はスピードが速く進んでいるというふうにも言われていると思うんで、この辺でその要因は何だったのかっていうことややっぱり探求していかないと、今のままでいけばどんどん減少してしまうと。

網走市も同じように人口減少が起こっているということで、いろんな取り組み、水谷市政になってからも、子育て世帯に対する支援なんかをやって、それはそれで評価できるというふうに思うんですけども、全国あるいは全道の中でも、独自の行政としての取り組み、一番、少子高齢化の要因の責任というのは国の政治が一番大きな要因だというふうに思うんですけども、地方自治体としてもやっぱり、独自の取り組みをやることによって、減少化をそれに歯どめをかけて、増勢に転じている自治体も、道内にもあるというふうに思っています、その辺での考え方、どんなふうにお考えか伺いたしたいと思います。

**○秋葉孝博企画調整課長** まずその少子高齢化でございますけれども、まず初めに、核家族化っていいですか、それまでの日本の古きよき時代っていうんですかね、そういう時代はお父さん、お母さんがいて、おじいちゃん、おばあちゃんがいて、その中で、子供が1人ではなくて、その兄弟がふえて孫ができてというような、そうした風潮ってのはかなり

昔からですね、日本がもう変わってきてるなど。

人口減少は皆さん御承知のとおり今始まったことではなくてですね、相当、昭和の早い段階からもう始まっているなど。

今その核家族がやはり一つ要因だったのではないかと、そして今現在、単身世帯というのは、やはりふえてきていまして、このままの風潮でいくと、恐らくこれは日本全体の問題として立ち行かなくなるという危機感を持っています。

それに対して、基礎自治体だけで取り組めることというのはやはり限りがあるというふうに考えてまして、現在、総合戦略を立てまして、市としても取り組んでおりますが、なかなかその増加に転じたような自治体っていうのは予算規模ですとか人口規模、それからそれぞれのまちの成り立ち、まちの構成のされ方もなかなか違うので、一概に比較はできないというふうに考えております。

いずれにしても、この状況に対しては、逃げるわけにはいきませんので、積極的に取り組んでいきたいというふうに考えております。

**○松浦敏司委員** 核家族化っていう点では確かにそのへんはあるんだけど、じゃあなぜ核家族化になったのかという、その辺も、これは理由が多分あるんだと思うんですね。

高度経済成長の中で、さまざまな形で農業者が農業ができなくなると。

構造改善というようなことで、そういった形で農村地域から、まちへ労働者としての労働力を確保するという点でその役割も果たしていくというような状況がありました。

そういう形で1960年代後半あたりから、高度経済成長ではあるけれどもそういう中で大きく日本の全体が変わっていったと。

それは、その時代の流れでそうなのかもしれないけれども、しかし、そういう中であってやっぱり日本の政治そのものがどうだったのかっていう思いは私は思ってるんです。

そういう中で、国の政治に大きく左右されるのは地方自治体ですから、地方自治体もいろんな努力はしたけれどもなかなか思ったように少子高齢化は止まらないということ。

しかしやっぱりそういう中であって、しっかりとこの部分で総括をして、いろんな皆さんの意見を聞いて、よりよい総合計画にするという点で、私は人口減少・少子高齢化社会のこの部分で大いに知恵を

出してね、そうさせないために地方自治体として何ができるのかと、どんなことがやる必要があるのかっていうことをよく出し合って、よりよいものにしてほしいと、そういう意味で質問したところですけども、そういった考え方が必要ではないかと私は思ってるもんですから、その辺での基本的な考え方というのを改めて伺いたいと思います。

**○秋葉孝博企画調整課長** 今、御説明させていただきました、時代の潮流ということで、これは（１）人口減少というのは当然掲げておりますし、この問題につきましては、単に人口が減るというだけではなくて、労働力の問題ですとかさまざまな問題に、要因、原因になりまして、さまざまな問題がこれから顕在化していくというふうに考えておりますので、基本的な考え方としてそこに取り組むというのは、一丁目一番じゃないですけども、最も重要な点であるというふうに認識をしております。

**○松浦敏司委員** そういった私なりの考えもあって、ぜひ、よりよい計画をつくるためにも努力してほしいということであります。

私のほうから以上です。

**○金兵智則委員長** 他にございますか。

**○川原田英世委員** 第6期総合計画ということで、今の状況で出ている考え方、基本的な考え方について、具体的な中身については特段触れませんが、ちょっとここに至るまでの中身で少しずつ確認していきたいんですが。

まず一つ目、アンケート調査の結果、これが出てるところで、今、具体的に市民の声としてはわかるのが、ここが一番濃いのかなと思って見ていたんですけども、アンケート結果ですので、いろんなデータをどういうふうにひもといていくのか、そこでどういうふうに提示してどんな意見をもらえるのか。いろいろ活用方法があると思うんですが、例えばですけど、住みやすさで今、ぱっとこう何%出てますけども、回答、回収の属性の年齢等もわかってます、世代ごとでも追っていきけるなと思うんですが、そういったところでいろんな形でのデータの集約の仕方っていうのは既に何かしらの形でされているということで理解してよかったんでしょうか。

**○秋葉孝博企画調整課長** アンケートはさまざまな分析が必要だというふうに認識をしております。

今回、これをまとめたのは、その中でもポイントとなる点について取りまとめたもので、例えばです

が、2の（１）基本意識、住みやすさという点ですが、前回、10年前にも同じようなアンケート調査をしております、ほとんど構成割合が変わっていないというのが現状でございます。

住みやすい、どちらかといえば住みやすいが66.8%が今回ですけども、10年前が64.7%、若干下がってますが、逆に住みにくい、どちらかといえば住みにくい、今回13.1%ですが、前回もここは同じ13.1%になっております。

読みとしましては、緑色、14.1%でどちらともいえないというところから、どちらかというところの方が少しふえたというような状況です。

悪くなったという、現状ではないと思うんですが、ほぼ変わらないというふうに認識をしております。

次に2ページに記載されてます、豊かさですとかまちの将来像についてですが、ほぼ同じような構成割合となっております。

順番、皆さんが、市民の皆さんが考える豊かさとは何かということで心身の健康がトップで以下同じような系列になってますが、無回答が若干前回に比べるとふえているという傾向があります。

まちの将来像につきましても、同じような順番、最も重要なのが保健・医療・福祉ということで上げられておまして、日常生活と、その下、環境にやさしくは順番が若干変わってるんですけども、ほぼ変わらないということが傾向といえます。

こちらのほうも無回答の方がふえてるところの傾向だけが同じように出てるという状況です。

これが一概になぜ出てるかというのはなかなか解析が難しいですが、基本的に、市民の皆さんが考えるこうした思いというのはそれほど大きく変わってはいないというふうに認識をしております。

**○川原田英世委員** 市民団体等がアンケートを行っている結果も、私も見てたんですけど、大体同じような内容なんですね。

やっぱり結局問題をひもといていくと、こういうことになるんだろうと思うんですけども、重要なのはやっぱりその中でこの先10年間取り組むことによるこの世代の年齢がこう徐々に徐々に上がっていくことについて、10年間でやっぱり新しい課題がやっぱり見えてくるんだろうというところもありますので、アンケートのこの結果はいろんな形で分析をさらに進めて情報提供をしながら、やっぱりあの計画の策定は進めていただきたいなというの

がまず1点目です。

次にワークショップ等、協働会議等が開催されるといことで、これは資料1-3で結果についてでているといところ、ちょっと具体的な中身が見えないもんですから、まず1点、質問させていただきたいのは、37名参加で第1回目34名からで、こう経歴見ていくと、第3回ぐらいから何か参加しての方が半分ぐらいになっているような、何か専門的に絞っていったとか、どういったワークショップのやり方をしてどういった意見が出てたのか、大まかなものでいいんですけども、どういった流れだったのかを教えてくださいなと思います。

**○秋葉孝博企画調整課長** ワークショップにつきましては、参加いただいた皆様を5つから6つのグループに分けて、それぞれここにテーマが記載をしておりますが、これに基づきましてそれぞれ意見を述べていただきまして、最終的に各班から意見をいただくといことで、なるべく、例えば意見に対して否定をしないですか、皆さんが間違った意見でも何でも結構なので、とにかく出していただくといことで行いました。

それぞれその開催時間なんですけど、平日の6時半から7時ぐらいから毎回開催をしております、仕事の都合で欠席される方、それから時期的には忙しい時期も重なった方もいらっしゃるし、参加人数が減少傾向になったといふうにとらえております。

**○川原田英世委員** わかりました。

なかなか時間的にもといところで、とはいえ分野別に深掘りをしていったといことには変わりないんだろうと思んですけども、ここでは基本的には、いろんな、とりあえず課題や問題点を集約するといか、どんどん出してもらおうといことで受けとめてきたのがこのワークショップだったといことで理解してよいのでしょうか。

**○秋葉孝博企画調整課長** 回を重ねるごとに、基本的な考え方はそういう考え方です。

その中からそれぞれ一つずつテーマを絞りながら進めていきました。

分野別に各テーマを持って取り組んだという形ではなくて、みんなが一緒になって同じテーマをそれを進めていくと、分野別ということもあつたんですけど人数も限られてましたので、同じテーマに沿って、それぞれ項目を絞りながら進めていったというイメージでございます。

**○川原田英世委員** わかりました。

いろいろと意見を聞いてまとめ上げたものが今の状況で、基本的な構想と考え方という形になってると思んですけども、といことはゼロベースからいろいろと話をまとめていったといことになると思んですけども、そこで第5期から、この6期といところで何か、そこは基本的には維持しながら、ゼロから集めていくといのではなく、基本的なものがあつていったのか、それとも本当にもうざっくりと何でもいから出して下さいとい中で今回これがまとまって考え方として出てるのか、その部分ちょっと教えていただきたいんですけども。

**○秋葉孝博企画調整課長** 基本的にはゼロベースでございます。

ただ、今のまちづくりがどういうことで進んでいといことを私のほうからある程度説明させていただく時間をつくりまして、今、市が進めてるそれぞれの施策については説明をした上で、皆さんに話し合っていたいたといことで、まっさらだと何も浮かばないといことがあるもんですから、課題なんかもお話させていただきながら整理を進めてまいります。

**○川原田英世委員** わかりました。

ゼロとは言いながらもこれまでの経緯を踏まえていといことで、第5期の計画のほうも、いろいろ見ていったら、やっぱり現代の課題に通じるところが、ほとんどと言ってもいいんじゃないのかなと。時代の背景的な部分についてはいろいろと、人口減少、ここまで明確になってきたといところもあつていろいろあると思んですけども、大きな課題や取り組みといところは変化といかそんなに変わるものではないんだといふうに受けとめさせていただいたんですけども。

そこで思ってたのが第5期の中でもう、PDCAサイクルという言葉がもうそのとき既に使われていて、常に計画を見直して、そして反映させていくといことで第5期も進められてきたといことがここにあります。

それ考えると、第6期をゼロからといことには僕はなかなかないんだろうと、それまでの取り組みがPDCAサイクルを使ってまで議論してきたのであれば、僕は第6期をゼロベースとい考え方にならないと思んですけども、そこら辺どのような認識でおられるのかお伺いしたいと思します。

**○秋葉孝博企画調整課長** 例えばゼロからといの

は、とにかく何ですか、市のほうがそちらの方向性持っていくと、そういう概念がなくて、まず皆さんが持っていていただくことを話し合っていたきたいということを進めてまいりました。

結果的になんですが、市民の皆さんの意見としてはそれほど変わっていないと、人口減少はもっと前からですし、経済のグローバル化ももっと前です。

大きく変わったという点でいくと、改めて感じるのは大きな震災が相次いで起きたということで、やはりその日本全体ですが、そういった大規模な災害を通じて、やっぱり人と人のつながりが大事だということを改めて感じているという点と、あと、機械ですとかロボット、この辺が今急速に進んできているということで、もっと前の時代でも、例えばファクシミリですとかそういった電子機器っていうのが20年前だとそういったものが出てきた時代なんです、その発展が目まぐるしく、非常に速いスピードで発展しているということで、それほど時代背景も含めて大きな変化っていうのは、10年前からも比べてもそれほどないと。

ただ、災害が起きたというのと、その進歩が、人口減少の進展はかなり予想より進んだというのと、高度経済のグローバル化が急速に進んでいるという点では、そういった大きな変動ってのはあるんですけども、基本的には変わっていないと。

ただ、今取り組んでるさまざまな施策についても、方向性的にはそれほど大きく変わらないと思います。

ですから第5期をゼロベースという考えではなくて、継続するものは当然継続をして、さらに、どこに力を入れていくのか、そういった点については、それぞれの年の予算編成であったり、総合戦略だったという点だというふうにとらえております。

**○川原田英世委員** 大分中身についてわかりました。

もう1点、前回の計画もP D C Aサイクルをとられたということで、それまでに見直して改善をしてまた新たな計画をと進めてこられた経過、経緯があると思うんですけども、そういったこれまでの取り組んできた経過だとか見直したポイントだとかそういったものは、今回の計画に、前回の第5期の計画のP D C Aサイクルの結果というのは反映されるのか、何か入れ込む形をとるというお考えがあるのか、お伺いしたいと思います。

**○岩永雅浩企画総務部長** 第5期の計画についてで

すけれども、同じようにP D C Aサイクルに基づいてということで評価などしてきました。

中間見直しも行いまして、そのスタートに総合戦略の策定が待っていたということもありました。

なので、中間評価の後で総合計画そのものを改定するという必要はないという判断をしましたが、それでも、その改定をしないまでも、状況はかなり変わってきているというのもありましたので、そこを人口ビジョンとにらみながら総合戦略に反映して、それを総合計画の戦略版というふうな位置づけをさせていただいています。

今も総合戦略進んでますけれども、速いスピードで変わっていくもの、やっぱり変わっていつている状況がありまして、そのあたりをどう見るかっていったあたりが、先ほど課長が説明した時代の潮流と網走と、網走にとってその時代の潮流がどうなのか、一般論でなくて、その中で書き込みを、表現をし、最終的には基本計画のほうに移っていきますけれども、その中で具体的な事業としてどう盛り込めるのかといったような段取り、手順になっていくかなというふうに考えています。

**○川原田英世委員** わかりました。

総合計画があつて、個別具体的に取り組みだとか、K P Iをどうしていくだとかそういうのは戦略という形で、既にあるまち・ひと・しごと創生総合戦略もありますけども、そういったもので、細かくはつくっていくっていうような感覚、考えていっていいもんなんじゃないでしょうか。

**○岩永雅浩企画総務部長** 基本的にはそういう考え方を持っていますが、個別の実施計画については各課が策定をして、このあと水道ビジョンもありますけれども、そういうものもどういうふうに進捗しているのかっていうのを見ながら、総合計画はこれまでもつくってきていますし、これから、今の計画についてもそのような考え方でつくっていきたいというふうに考えています。

**○川原田英世委員** わかりました。

最後に確認なんですけど、この計画にはK P Iのように目標値は入らないということで認識してよかったですでしょうか。

**○秋葉孝博企画調整課長** 今のところ、それぞれにK P Iってのは総合戦略を持って進めてますので、総合計画に盛り込む予定は今のところはございません。

**○金兵智則委員長** 他にございますか。

**○永本浩子委員** これから10年間の第6期の計画ということなんですけども、このこれからの10年の中には2025年問題と言われていた時期も入りますし、AIの導入っていうのが本格化されてくると、私たちが想像もできなかったような展開っていうのも、いろいろ起きてくるのではないかなっていうふうに思っているわけなんですけども、そう考えると何か10年という、今回のこの10年というのが、すごくこの10年で大丈夫、多分途中の、中間見直しというところで、そこら辺を修正とかしていくと思うんですけども、その辺に関してはどのように捉えていらっしゃるのかなと思ひまして。

**○秋葉孝博企画調整課長** 総合計画に関しましては、長期的、10年の長期ビジョンというふうに捉えていただきたいと思います。

この間で、さらに目まぐるしく、その社会情勢が変化するようなことがあれば、総合計画の見直しもかかりますし、基本的な体系として総合計画があって、各分野別、各課別の個別計画がぶら下がるようなイメージですので、短期的に物事に対応する場合は、そうした個別計画で対応してまいりますので、今、委員おっしゃったような、本当にこの10年先というのはなかなか見通しが立たないような時代に入ってきているというふうに認識しておりますので、計画の見直しの必要性があれば、期間を持って見直しも図っていききたいというふうに考えております。

**○永本浩子委員** 本当に正直な話、本当にこの後どういうふうになっていくのかって本当にだれもわからないというか、そういったものが実感かなと思ひますので、その対応力というところで期待したいと思ひますので、以上です。

よろしくお願ひいたします。

**○金兵智則委員長** 他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、これで終了したいというふうに思ひます。

---

それでは、続きまして2項目め、網走市水道ビジョンの策定について説明を求めます。

**○野呂俊広営業経営課長** 資料2号をごらんいただきたいと思ひます。

水道部ではこのたび網走市水道ビジョンを策定してございます。

目的でございますが、近年の水需要の減少、それから施設の老朽化など、環境の変化に対応するた

め、厚生労働省が示した指針に沿って、当市における今後の方向性を示すものでございます。

なお、本計画は平成20年度に期間を10年間として策定した、網走市水道事業基本計画の後継としての位置づけでございます。

計画期間につきましては平成30年度から平成39年度、主な内容につきましては、厚生労働省から示された「持続」、「安全」、「強靱」の三つのテーマに沿って作成してございます。

主な内容につきましては記載のとおりでございます。

以上でございます。

**○金兵智則委員長** 質疑に入ります。

何かございますでしょうか。

**○松浦敏司委員** 今、示されたばかりですから、詳しい中身についてまだ承知してないんでどうこう言えないんですけども、ただ、国のほうの考え方として、水道事業についても、今、企業会計ということでやってるんですけども、これが民営化っていう国の考え方があるというふうにも聞いていて、これは私は絶対にやるべきでないというような考えがあるので、このビジョン全部読んでないから全くわかりませんが、そういった考え方もこのビジョンの中には入っているのでしょうか。

**○野呂俊広営業経営課長** 松浦委員おっしゃりました、水道法の改正で今、議論されようとしてございまして、昨年水道法の改正を予定してたんですけども、衆議院の解散があって一旦白紙に戻って、また今回の国会で議論されるかと思ひてます。

その内容の中には、おっしゃりました営業権の譲渡、コンセッション、民営化ですとか、あとは、広域連携とかっていうような内容になってるんですけども、中身の趣旨としては、先ほどありましたけれども、人口減少時代を迎えて、給水人口が減少していく中で、どう対応するかっていうことなんですけれども、いずれにしても基盤の強化ということが今後、各自治体に図られるということで、この水道ビジョンの内容にもさまざまな、例えば、施設の老朽化にどう対応するか、あとは経営の減少も、それから技術の継承も含めてそういった基盤の強化という課題について、触れてございます。

**○松浦敏司委員** いずれにしても、やっぱり水は、私たち市民の命にかかわるもので、安易な形での民営化っていう点では全く理解できないし、やはり水の確保という点では、やはり公のところがか

り、そこを握って、そして市民に安全な水を供給するということが大前提だというふうに思うものですから、その辺、若干懸念もしてるものですから、とりあえずこのビジョンについては承った程度で私は、いうことで、これから議論をしていくことになるだろうと思います。

○金兵智則委員長 他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、承ったということでしたというふうに思います。

ここで、委員、理事者から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、ここで理事者退席のため暫時休憩をいたします。

午後 1 時 29 分休憩

午後 1 時 30 分再開

○金兵智則委員長 では再開をいたします。

続きまして、3 項目め、行政視察の実施についてであります。

まず最初にですが、今年度の行政視察について、行政視察を実施するかどうか決定をしたいと思いますが、行政視察についてはいかがでしょうか。

○渡部眞美委員 例年どおり、各委員会でそれぞれ課題を持って、先進地を見てくるべき課題はあると思いますので、今年度もぜひ実施をしていただきたいと思います。

○金兵智則委員長 ただいま実施をしたほうがいいのかという御意見がございましたが、何か他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、来年度についても行政視察を実施することに決定をしたいというふうに思います。

実施するにあたりまして、日程、視察項目、視察先などを協議しなければならぬのですが、例年、改選期のない年は 5 月に実施をしておりますが、それでよろしかったでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは 5 月にということなんですが、例年 5 月に実施するときには、だいたい第 3 週目、4 週目辺りというようなところで決定をしてるんですが、日程につきましてはどうでしょうか、今決めてしまうか、それとも実施先、もろもろ含めて、次回ということにしたいと。

じゃあ次回ということにさせていただきますよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは次回は、3 月 6 日の委員会で、また視察についての協議をしたいと思いますので、5 月のその日程、14 の週と 21 の週、もう 1 個、文教民生の委員会との絡みもあるので、御要望が全て通るかどうかわかりませんが、例年その辺で行っているのと、視察項目、視察先などについて、それまでの間に委員長、副委員長もしくは事務局まで何か御意見を前もっていただいても構わないですし、そのときに持って来ていただいてもいいので、そこでまた協議したいというふうに思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それではそのようにさせていただきたいというふうに思います。

その他、何かございますか。

なければ、長い間お疲れさまでした。

これにて総務経済委員会を終了させていただきます。

お疲れさまでした。

午後 1 時 33 分閉会